

## 関東山地北西部に分布する北部秩父帯上吉田層のチャート角礫岩の堆積学的・微古生物学的検討

### Sedimentological and micropaleontological research of chert breccias of the Kamiyoshida Formation in the Northern Chichibu Belt

# 小久保 晋一 [1]; 松岡 篤 [2]

# Shinichi Kokubo[1]; Atsushi Matsuoka[2]

[1] 新潟大・院・自然科学; [2] 新潟大・理・地質科学

[1] Natural Sci., Niigata Univ; [2] Dept.Geology, Niigata Univ

秩父盆地北西方の北部秩父帯には、構造的低位より柏木層、万場層、上吉田層、住居附層が分布する。それらの地層は一般に低～中角度に傾斜し、背斜・向斜構造を繰り返す地質構造をなす。褶曲軸の走向は東西性である。上吉田層は、主としてチャート、砂岩泥岩互層および泥質混在岩からなり、緑色岩、珪質凝灰岩、珪質泥岩、珪質粘土岩、石灰岩、チャート角礫岩、礫岩を伴う。上吉田層のチャート角礫岩は、秩父盆地北西部の城峯山付近や土坂峠南方、上吉田北方に多く分布する。チャート角礫岩は、主としてチャートの角礫からなり、まれに珪質粘土岩、珪質凝灰岩、石灰岩、砂岩、泥岩、凝灰岩の礫を含む。礫の大きさは、主に細礫～中礫サイズで、まれに大礫～巨礫を含む場合がある。チャート角礫岩は礫支持で、基質は泥岩ないし砂岩からなる。チャート角礫岩は、珪質凝灰岩を挟む珪質泥岩、泥岩および中粒砂岩を挟む。なお、チャートの角礫には放散虫化石が含まれることを確認している。調査結果より明らかになったチャート角礫岩の分布を踏まえ、チャート角礫岩の堆積学および微古生物学的検討から、上吉田層の堆積環境について議論する。